

業務システムを支えるBPMの 電力市場関連システムへの適用

山足光義* 北山泰英*
五十嵐政志* 茂木 強*
砂田英之*

BPM Technology for Electric Power Trading Systems

Mitsuyoshi Yamatari, Masashi Igarashi, Hideyuki Sunada, Yasuhide Kitayama, Tsuyoshi Motegi

要 旨

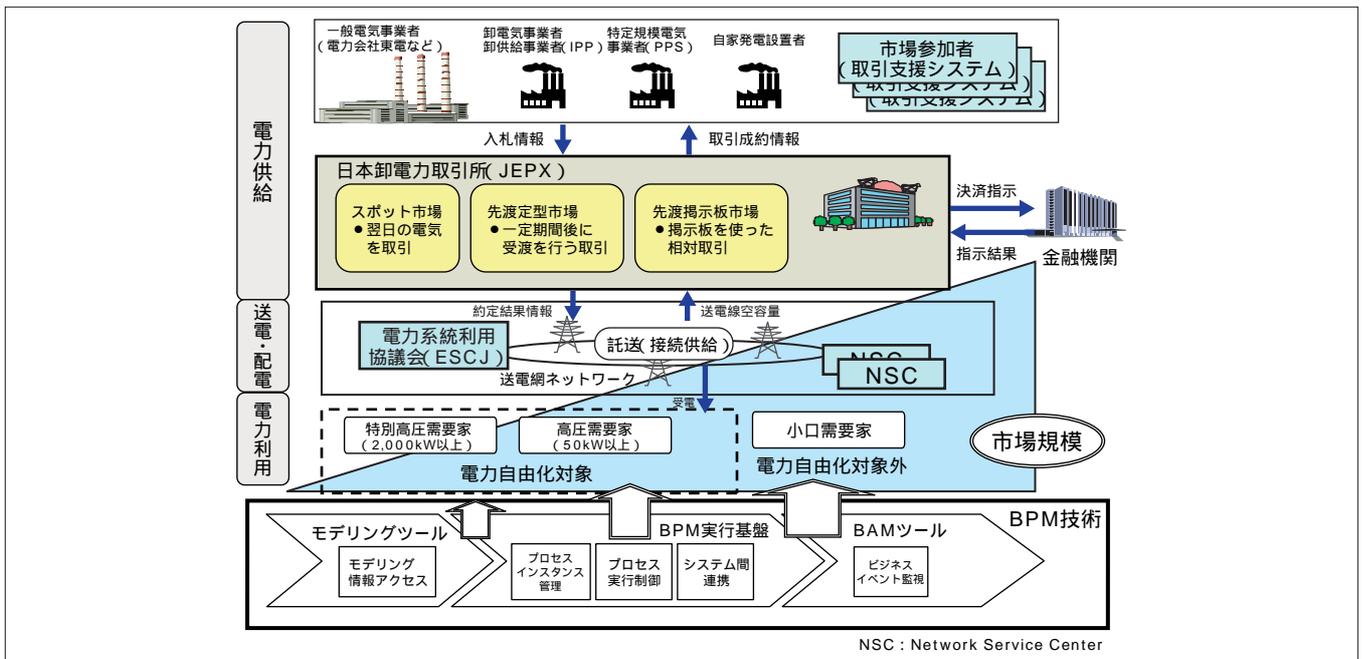
1995年の電気事業法の改正による卸発電市場の自由化に始まり、“電気の卸取引を行う日本卸電力取引所”が設立され2005年4月からサービスが開始された。日本卸電力取引所における電気の取引においても、証券取引と同様に決済期間の短縮による決済リスク削減等を実現するため、IT（情報技術）を活用し、STR（Straight Through Processing）に向けた様々な取り組みが行われている。その結果、卸電力取引所では、電力売買の約定した翌営業日を決済とする“T+1”が実現されている。

STPとは、取引の約定から資金決済までの一連の事務処理を人手を介さずに自動的にを行うことを言う。そのためには、分断されたシステムに対して人手によるデータの二重入力などを避け、システム間のスムーズな連携を実現し、処理の自動化を行う必要がある。三菱電機では、STPを実現するための基盤技術としてBPM（Business Process Management）技術の研究開発を実施している。

BPMとは、業務全体のプロセスを可視化し、設計から

運用までのPLAN-DO-CHECK-ACTIONの各サイクルを回しながら業務の効率化を行うものであり、当社のBPM技術では、このサイクルを効率的に回すための各種支援ツールの技術開発を行っている。また、BPM技術を活用して、注文・約定から決済までの一連の処理の流れに対してモデリングを行い、各処理の自動化を行うことでSTPが実現可能となる。しかし、システムの自動化を含めたBPM機能の適用範囲については、実際の電力取引の普及度合いや実運用に合わせて順次適用していく必要がある。当社のBPM技術は、必要機能をシステムに合わせて組み込むことが可能な構造となっており、この機能を活用して市場動向に合わせた技術適用と今後の拡張性を確保したシステム構築を実現した。

本稿では、当社が研究開発しているBPM技術の概要と電力市場関連システムに対して適用したBPM技術の内容について述べる。



電力市場関連システムとBPM技術

当社は、BPM技術としてモデリングツール、BPM実行基盤、BAMツールの研究開発を実施している。各機能のライブラリ/プラグブルの特長を生かし、各システムの市場動向に合わせて必要な機能を盛り込むことでビジネスプロセス情報の有効活用とSTP化を電力市場関連システムに対して適用していく。